

都市再生整備計画(第3回変更)

けんおうおおはしにしづめしゅうへん
県央大橋西詰周辺地区

にいがた つばめし
新潟県 燕市

令和2年1月

目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	燕市	地区名	県央大橋西詰周辺地区	面積	145 ha
-------	-----	------	----	-----	------------	----	--------

計画期間	平成 28 年度 ~ 令和 2 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 令和 2 年度
------	--------------------	------	--------------------

目標

大目標 文化・交流の拠点づくりを通じた都市のコンパクト化への貢献

- 目標1 豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の強化・充実を図ります
- 目標2 拠点施設間の有機的な連携が可能となるよう一体性及び回遊性を創出します

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

本市は、越後平野のほぼ中央、県都新潟市と長岡市の中間に位置し、信濃川と信濃川の分流である中ノロ川、西川に沿って形成されている。また、県下有数の工業地帯であり、金属洋食器、金属ハウスウエア製品は国内の主要産地となっており、産業と歴史と自然が調和した地域である。

本地区は、燕市の伝統産業発展の歴史を伝える産業史料館、中ノロ川の水辺空間と一体となった大曲河川公園、スポーツ・レクリエーション拠点として多くの市民が利用する交通公園、子育て世代の交流の場である児童研修館「こどもの森」といった公共施設が近接して立地する文化・交流拠点である。

都市計画マスタープランにおいて広域交流拠点に位置付けられている上越新幹線燕三条駅、北陸自動車道三条・燕インターチェンジ周辺、生活拠点に位置付けられている燕地域市街地中心部に隣接しており、本地区において文化・交流の拠点づくりを更に推進することにより、隣接する中心拠点の居住地としての付加価値やステータス、都市機能集積地としての開発ポテンシャルの向上につながり、下記に記載の将来ビジョン(中長期)の実現に貢献することが期待されている。

また、隣接する居住地域では若者世代の他地域(特に東京圏)への流出が人口減少に多大な影響を及ぼしており、特に職業を理由とした流出が多いためその対策を求められている。

本地区には既存の公共施設が多数立地しているが、いずれも特定の目的を持った特定の対象者が利用する施設であり、広く集客を図る要素には乏しい。現状では、寺泊・弥彦に行き来する観光客も本地区を通過するだけとなっている。

本地区を地域の活性化に資する観光・交流拠点とするためには、既存の公共施設の機能を強化し、有効に活用することが必要である。

なかでも産業史料館は、市内外から比較的幅広く集客できる可能性を有した施設であるため、当該施設を核として、民間活力を導入し地域住民やボランティア団体と連携した整備・運営により、本市の最大の魅力である産業を始め、豊かな自然や質の高い農産物、ご当地グルメなど、来訪者を魅了できる地域資源を最大限に活用し、地域内外から人を集める集客機能、市内や周辺観光の情報発信機能、を備えた観光交流拠点を整備することにより地域経済の活力向上を図り、一定量の雇用を持続的に創出することにより、若者世代の他地域(特に東京圏)への流出を抑制したい。

さらに、交通公園は親子連れを中心に大勢の利用客があることから、対象エリアを回遊しやすくすることにより、既存の公共施設間の相互利用を促して滞留性を高め、周辺地域に暮らす若者世代や子育て世代等に人気のスポットとして周辺施設の「にぎわい」を創出し居住人口の減少抑制を図りたい。

以上のことから、本地区への地域内外からの集客力をさらに向上させ地域を活性化するには①新たな拠点施設の整備及び既存施設の機能強化、②回遊性を高めること、③エリア内の施設へのアクセス性を高めることが必要であると考えている。

課題

- ・若者世代の他地域(特に東京圏)への転出が人口減少に多大な影響を及ぼしているが、特に職業を理由とした転出が多い。
- ・周辺に暮らす若者世代や子育て世代等が1日中遊べる公園や施設がない。
- ・産業、自然、スポーツ・レクリエーション、交流に関連する様々な公共施設が集積しているが、いずれも特定の目的を持った対象者が利用する施設であり、施設間のつながりがハード、ソフト両面で希薄である。

将来ビジョン(中長期)

- 燕市総合計画【平成20年度～平成27年度】(平成20年3月策定)
 - ・将来像『人と自然と産業が調和し、進化する燕市』
 - ・基本方針に『利便性が高く、にぎわいを創るまち』、重点プロジェクトに『“燕らしさ”創造プロジェクト～燕の地域特性づくり～』を位置づけ
 - ⇒地域固有の資源を活かした土地利用や拠点整備を行い、それらを地域内外に発信することにより、市民が誇りを感じることができる環境の醸成、地場産業の活性化や交流人口の増大を図る。
- 燕市都市計画マスタープラン(平成22年3月策定)
 - ◇全体構想
 - ・将来像『人と自然と産業が調和した夢のある都市』～コンパクト都市の実現～
 - ・本地区に立地する産業史料館、燕市交通公園周辺は文化・交流拠点に位置付けられており、既存施設の充実や各施設のネットワーク化を図り、交流人口の増加に努めるとされている。
 - ◇地域別構想【燕第一地区(まちづくり協議会)】
 - ・将来像『伝統・文化を活かし、安心安全な暮らしを、助け合いと絆で守り育てる燕第一地区』
 - ・地区固有の資源を活かしたまちづくりを実現するため、歴史・文化の継承、スポーツ・レクリエーション施設の拠点性の向上などが位置付けられている。

目標を定量化する指標

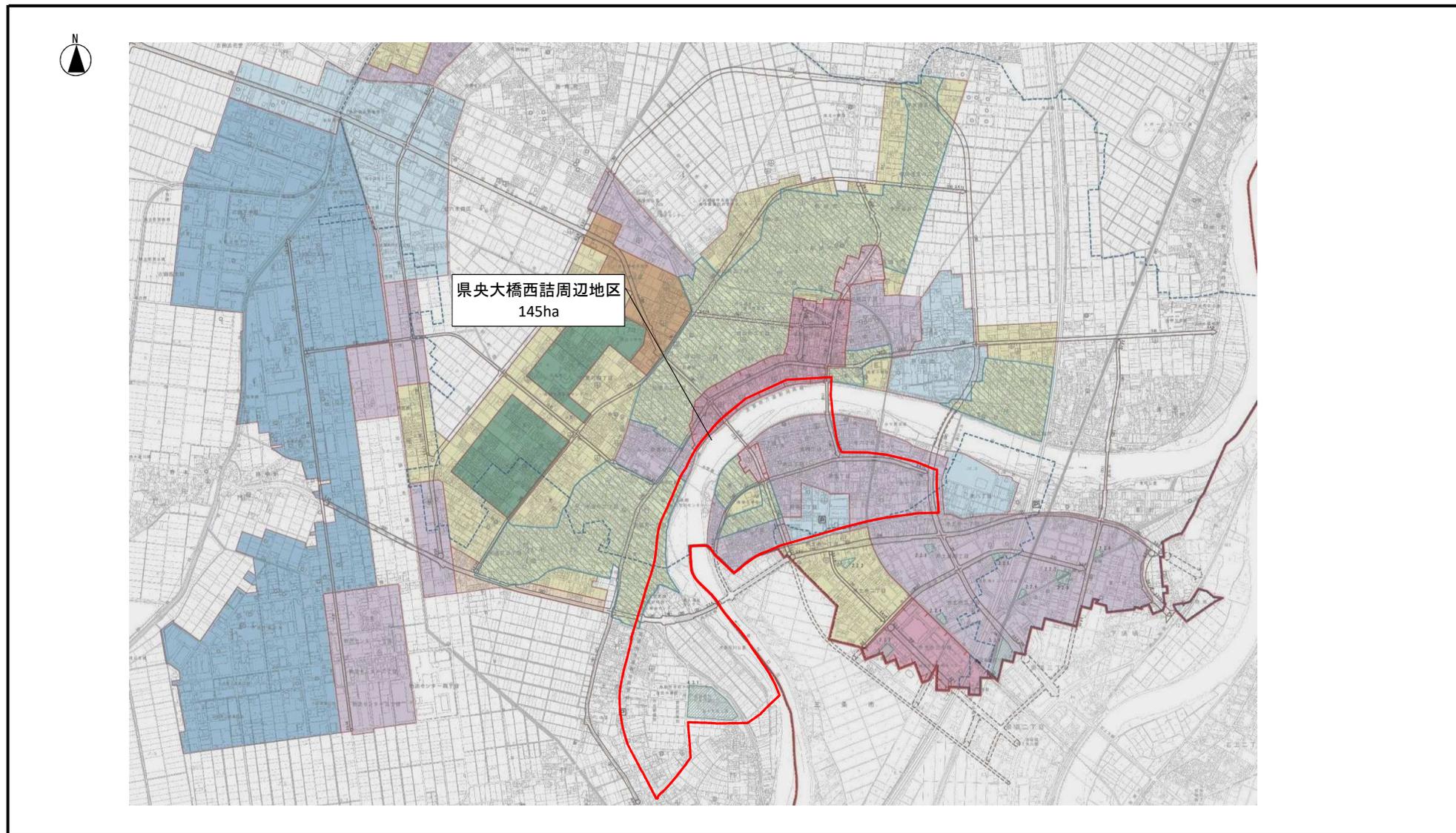
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区周辺の居住人口	人	地区内及びその周辺(燕駅南の旧市街地や秋葉町、水道町)の居住人口	本地区に隣接する広域交流拠点や生活拠点への波及効果を、地区周辺の居住人口の動向により評価する。	15,722	平成26年度	15,527	令和2年度
周辺施設の利用者数	人/年	周辺施設(産業史料館、大曲河川公園、交通公園)の利用者数	拠点施設の機能強化・充実やアクセス性及び回遊性の向上による集客効果を、周辺施設利用者数の増加により評価する。	128,808	平成26年度	148,773	令和2年度

整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の機能強化・充実</p> <p>・既存施設の機能を補完し、文化・交流拠点としての魅力や拠点性を高めるため、地域や観光情報の発信機能、地域住民や来訪者の交流機能・体験機能を備えた観光交流センターを新たに整備する。 ・親水空間として市民の憩いや自然とのふれあいを提供する大曲河川公園、スポーツ・レクリエーション拠点である交通公園、燕市の伝統産業の発信・体験拠点である産業史料館は、現在の利用者ニーズや将来の利用のあり方を踏まえ、老朽化した本館の改修を含め、展示の工夫や新たな機能の付加等を行い、観光交流施設とともに、市民の余暇活動や健康づくりを支え、また、市内外に魅力を発信する施設としての機能強化を図る。 ・民間活力を導入し、地域住民と一体となった施設整備（観光交流センター、産業史料館）を行う。</p>	<p>・観光交流センター整備事業（基幹事業/高次都市施設（観光交流センター）） ・交通公園改修事業（基幹事業/公園） ・交通公園ゴーカートコース改修事業</p>
<p>整備方針2 拠点施設間の有機的な連携を可能とする一体性や回遊性の創出</p> <p>・拠点施設間の自転車歩行者の動線に合わせて、交通公園内の園路の改修を行う。 ・拠点施設間の一体性を創出し、文化・交流拠点としての魅力アップを相乗的に図るため、施設間の連携を生み出すソフトな仕掛けや仕組みを検討、実践する。（例えば、ウォーキングルートの設定、市民農園で野菜を収穫し大曲河川公園でバーベキュー、児童研修館「こどもの森」と市民農園が連携した収穫体験、施設間で連携し回遊するようなイベントなど）</p>	<p>・交通公園改修事業（基幹事業/公園） ・交流促進プロジェクト（提案事業/まちづくり活動推進事業）</p>
<p>その他</p>	
<p></p>	

都市再生整備計画の区域

県央大橋西詰周辺地区(新潟県燕市)	面積	145 ha	区域	南一～七丁目、殿島一～二丁目、井戸巻一丁目、大曲の1部
-------------------	----	--------	----	-----------------------------



県央大橋西詰周辺地区(新潟県燕市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	大目標	文化・交流の拠点づくりを通じた都市のコンパクト化への貢献	代表的な指標	地域周辺の居住人口 (人)	15,722 (H26年度)	→	15,527 (R2年度)
	目標1	豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の強化・充実を図ります		周辺施設の利用者数 (人/年)	128,808 (H26年度)	→	148,773 (R2年度)
	目標2	拠点施設間の有機的な連携が可能となるよう一体性を創出します					

